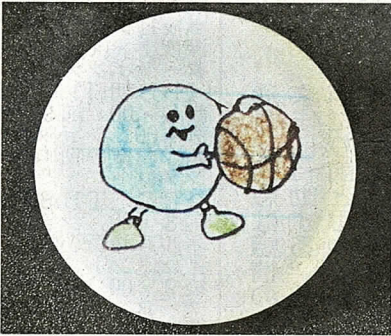


「娘は星に」父の歌



①次女を思いながらギターを弾く男性(伊丹市で) ②次女がノートに描いていたバスケットボールへの思いがあふれるイラスト。次女の友人が缶バッジにしてくれ、遺影のそばに置いてある



脱線事故16年

宝塚ギターつま弾く思い永遠

乗客106人が犠牲になった2005年4月のJR福知山線脱線事故で、大学に入学したばかりの次女(当時18歳)を失った宝塚市の男性(71)が、趣味のギターで娘を思う歌を作った。タイトルは「星のメロデー」。事故、病などで身近な人を亡くした人々の集いで披露し、亡き人を思い出しながら、声を合わせる。「あいする おもいはとわに」――。事故から25日で16年。追慕は広がっていく。

(高部真一)

次女は、雑誌の編集者になりたくて、大学はメディア関係の学部を選んだ。あの日は、通学のために脱線した列車に乗っていた。中学、高校の時は、バスケットボール部でポイントゲッターだった。応援に行きたかったが、思春期の次女に「お父さんは来ないで」

「星のメロデー」
ほしに なった わがむすめ
やさしい ひとみの そのえがお
わたしの こころの なかで
あいする おもいは とわに
きみに あいたい
きみに きつとあえる
きみに またあおう
ほしに なった わがむすめ

とつれなくされた。内緒で観戦に行き、見つからないようこっそりと相手チームの応援席に紛れ込んだ。次女の背番号は「6」。相手の応援席からは、「6番を止めろ」「6番マークや」という声。娘は相手に警戒されるほどの選手なんだと感じた。誇りしかった。「ばれないように、こっそりうれしさをかみしめた」

事故後、グリーンケア(悲しみのケア)の講座に通った。講座の仲間と、身近な人を失った体験を語り合う遺族の会「はすの会」をつくり、12年から大阪府東大阪市で、15年からは芦屋市でも毎月集まり、思いを共有している。

幅を広げようと、17年からは、大阪市内で音楽やアロマセラピー、コラージュ作りをしながらの茶話会「カフェ・ド・ロータス」も開く。歌を作ったのは、3年前。次女への思いを残したくて、自宅で歌詞をメモし、趣味で約20年続けているギターをつま弾き、仕上げた。

そう重ねた。希望、可能性、そして強い意志。そんな気持ちで、表したくて。19年2月の会合で参加者に歌詞カードを渡し、披露した。遺族の思いは同じ。約20人が涙を流しながら、歌った。車のハンドルを握りながら、ひとり口ずさむ。次女が小学生だった頃のことか浮かぶ。自宅の庭で日曜大工をしていた時、「パパの弟子になりたい」と背中を抱きついてきた。そのぬくもりが、確かに今もある。事故から16年。時がたてば、JR西日本に対する気持ちは変わるかもしれないと思っていた。でも、変わらなかった。「人災」で乗客106人の命を奪ったのに、誰も責任を取っていない。けじめがついていない。許すということにはならない。

へきみに あいたい きみに きつとあえる きみに またあおう

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、25日に事故現場の追悼施設「祈りの杜」で予定されていた追悼慰霊式は中止になったが、花を手向けに足を運ぶつもりだ。

神戸YPC 「仲良し」 例会秀作から 小林昌子さん(小野市)

関西学院 春季高校野球 高野連主催)は 市野球場など、8試合があり、野球大会に出場 国際大付は西宮 した。

結果は次の通り ◆2回戦▽飾磨 加古川西8-1伊 県は24日、新 人が新型コロナ